

第9問 大雨や集中豪雨のとき、水の中を歩いて避難するときの履き物としてふさわしいのはどれでしょうか。

- A：スニーカー
- B：長ぐつ
- C：サンダル

答え A：スニーカー

解説

長ぐつやサンダルは、水に浸かったときにぬげやすく、とても危険です。避難するときは、ひもでしめられるスニーカーなど、ぬげにくいつをはきましょう。



第10問 自宅の床(50cmくらい)まで浸水しています。あなたの家が2階建ての場合、どのように避難しますか。

- A：避難所に避難する
- B：自宅の2階に逃げる
- C：警察署、消防署に電話して避難の仕方をたずねる

答え B：自宅の2階に逃げる

解説

水害のとき、すでに大人のひざの高さくらいまで水が浸かっていたら、自宅の2階に逃げるのが安全といえます。特に、避難所までの道のりが遠かったり、川の近くを通らないと避難所まで行けない場合には、無理に外に逃げず、自宅2階にとどまるのがよいでしょう。ただし、雨の状況には十分注意して行動するようにしましょう。災害が起こったときには電話をかける人が急激にふえるため、電話が通じにくくなります。警察署や消防署にたずねなくても、自分や家族で避難の仕方を判断できるよう日ごろから備えておきましょう。

あなたと家族の命をみずから守るために、今日から行動を始めましょう

ご自宅や職場、学校周辺の水害の危険性や避難場所を確認しましょう。

- ◆ ご自宅や職場、学校周辺の水害の危険性や避難場所を確認しておきましょう。水害の危険性や避難所については、市町村が発行するハザードマップで確認できます。インターネットの「ハザードマップポータル」(国土交通省)を活用すると、お住まいの地域のハザードマップを確認できます。<http://disaportal.gsi.go.jp/>

- ◆ ご自宅や職場、学校周辺の標高を確認しておきましょう。インターネットの「電子国土ポータル」で標高を確認できます。<http://portal.cyberjapan.jp/denshi/index3.html>

- ◆ 家族で避難場所までの経路や連絡方法について話し合っておきましょう。

水防災クイズ「みずから守るチャレンジ」

回答と解説



第1問 各市町村で作られている、大雨などによる河川のはん濫の危険性や避難場所などを示した地図のことを何というのでしょうか。

- A：洪水デジタルマップ
- B：洪水ハザードマップ
- C：内水ハザードマップ

答え B：洪水ハザードマップ

解説

洪水ハザードマップとは、浸水想定区域(洪水はん濫のときに想定される最大の浸水の範囲のこと)と想定される水深を表示した図面に、洪水予報などの伝達方法、避難場所、その他洪水のときに円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要なことなどを記載した地図のことです。内水ハザードマップは、側溝や下水道の排水能力が追いつかない等の理由で、降った雨が地域であふれる場合の「都市浸水想定区域」を示した地図です。

あなたの住んでいる市町村では、洪水や内水に関するハザードマップが作られているのでしょうか。調べてみましょう。国土交通省ハザードマップポータルサイトで調べることができます。

第2問 災害用伝言ダイヤルの番号はどれでしょうか。

- A：117
- B：171
- C：177

答え B：171

解説

災害が起こったときには電話をかける人が急激にふえるため、電話が通じにくくなります。災害が起きた場所に住む親せきや友達の無事を確認するために便利なのが、NTTが提供している災害用伝言ダイヤル「171」です。「117」は時報、「177」は天気予報の電話サービスです。

第3問 短時間に激しい雨が降り、雷を伴うような大雨を降らす雲は次のうちどれでしょう。

- A：巻積雲(いわし雲)
- B：層積雲(うね雲)
- C：積乱雲(にゅうどう雲)

答え C：積乱雲(にゅうどう雲)

解説

巻積雲は、魚のウロコのような形の雲です。台風や移動性低気圧が近づく時に、多く見られる秋の象徴的な雲です。層積雲は、畑のうねのようにいくつもの雲が長く横たわっている感じの雲です。曇り空だが、雨を伴うことは少ないというのが特徴の雲です。

積乱雲は、地上と上空との大気の気温の差がある時に発達します。夕立を降らせるのはこの雲で、短時間に激しい雨が降り、雷を伴うこともあります。積乱雲が真上に来たら、雷の危険があるため、一刻も早く安全な場所へ避難して下さい。

第4問 人の命や建物などに被害が発生する災害が起こりそうなときに市町村役場が避難を呼びかける情報を発表します。もっとも危険度が高いのは次のうちどれでしょうか。

- A：避難指示
- B：避難勧告
- C：避難準備情報

答え A：避難指示

解説

避難への行動のレベルは、避難準備情報 < 避難勧告 < 避難指示の順に危険度が高くなります。避難情報は、市町村役場から発表されます。防災行政無線やサイレン、テレビやラジオ、インターネットなどで入手できます。

情報	状況	住民に求める行動
避難準備情報	人的被害の発生する可能性が高まった状況。	要援護者など、特に避難行動に時間を要する者は計画された避難場所への避難行動を開始。それ以外の者は避難準備を開始。
避難勧告	人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。	通常の避難行動ができる者は、計画された避難場所などへの避難行動を開始。
避難指示	前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 堤防の隣接地など、地域の特性から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 人的被害の発生した状況。	避難勧告などの発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了。 未だ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、時間に余裕がない場合は生命を守る最低限の行動。

「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」をもとに作成

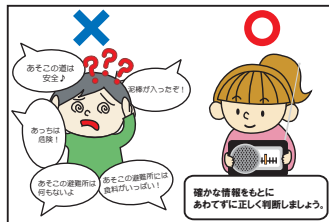
第5問 大雨のときの情報の集め方として、もっとも正しいのはどれでしょうか。

- A：家を出て、川や水路を見に行き確かめる
- B：市町村役場からの連絡を待つ
- C：テレビやラジオ、インターネットで情報を集める

答え C：テレビやラジオ、インターネットで情報を集める

解説

テレビやラジオ、防災行政無線、サイレン、インターネットなどで確かな情報を自分で収集することが重要です。自宅や建物内での待機が困難な場合は浸水する前に避難しましょう。過去の水害では、田や水路の見回りに行き水路に転落して亡くなったケースが毎年多く報告されています。大雨のときは川や水路に近づかないようにしましょう。



第6問 海辺にいるときに地震が発生した場合、どのように行動したらよいでしょうか。

- A：津波警報・注意報を確認してから避難する
- B：津波警報・注意報を確認せずに速やかに高台へ避難する
- C：揺れが小さければその場にそのままいてもよい

答え B：津波警報・注意報を確認せずに速やかに高台へ避難する

解説

津波から命を守るためには、地震発生から限られた時間の中で、速やかに避難することが重要です。海辺や海に近い場所で地震の揺れを感じたら、津波警報、津波注意報を待たずにただちに避難しましょう。

海辺で遊ぶときには、高台を確認しておくようにしましょう。

また、地震の揺れが小さいときや揺れを感じていなくても、津波が起きるケースもあります。津波注意報や津波警報が発表されたら、ただちに避難しましょう。

第7問 リュックサックの中に入れておいて、非常時に持ち出せるようにしておくものとしてもっとも正しいのはどれでしょうか。

- A：避難所で退屈しないためのオモチャやマンガ
- B：情報を集めるためのパソコン
- C：懐中電灯やレトルト食品、救急セット

答え C：懐中電灯やレトルト食品、救急セット

解説

日ごろから非常時の持ち出し品、備蓄品を準備しておきましょう。備蓄品（食料）は最低3日分、できれば7日分を準備しましょう。避難するときに両手が使えるようにリュックサックに荷物をまとめておきましょう。

<p>◆非常時の持ち出し品</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> マッチ・ライター <input type="checkbox"/> 缶きり・栓抜き <input type="checkbox"/> 粉ミルク 	<p>青：非常持ち出し袋（リュックサックなど）に入れておくもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> ティッシュ <input type="checkbox"/> 下着類・衣類 <input type="checkbox"/> 紙おむつ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 医薬品 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 高齢者や障害者のための常備薬や介護用品など 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> オープ <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 手袋 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 貴重品（現金、保険証など）
<p>◆備蓄品（食料関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 鍋、水筒 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 乾パンやクラッカー、缶詰 <input type="checkbox"/> 卓上コンロ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り・栓抜き <input type="checkbox"/> 粉ミルク、ほ乳びん（赤ちゃんがいる場合） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> レトルト食品 	

第8問 水があふれて道路などが浸水した場合、子どもが歩いて避難できる水の深さはどれくらいでしょうか。（水の流れが速くないとき）。

- A：腰
- B：膝
- C：足首

答え C：足首

解説

子ども（小学校5～6年生を想定）が歩ける深さの目安は、20cm程度です。20cm以上になると歩行が困難になるというデータがあります。大人の男性で70cm、女性で50cm程度です。また、水の流れがあるときはより歩行が困難になることから、子どもやお年寄りがある家庭ではより早めの避難が必要です。